



株式会社セック

Systems Engineering Consultants Co., LTD.

<http://www.sec.co.jp/>

銘柄コード:3741

2015年3月期 決算 説明資料

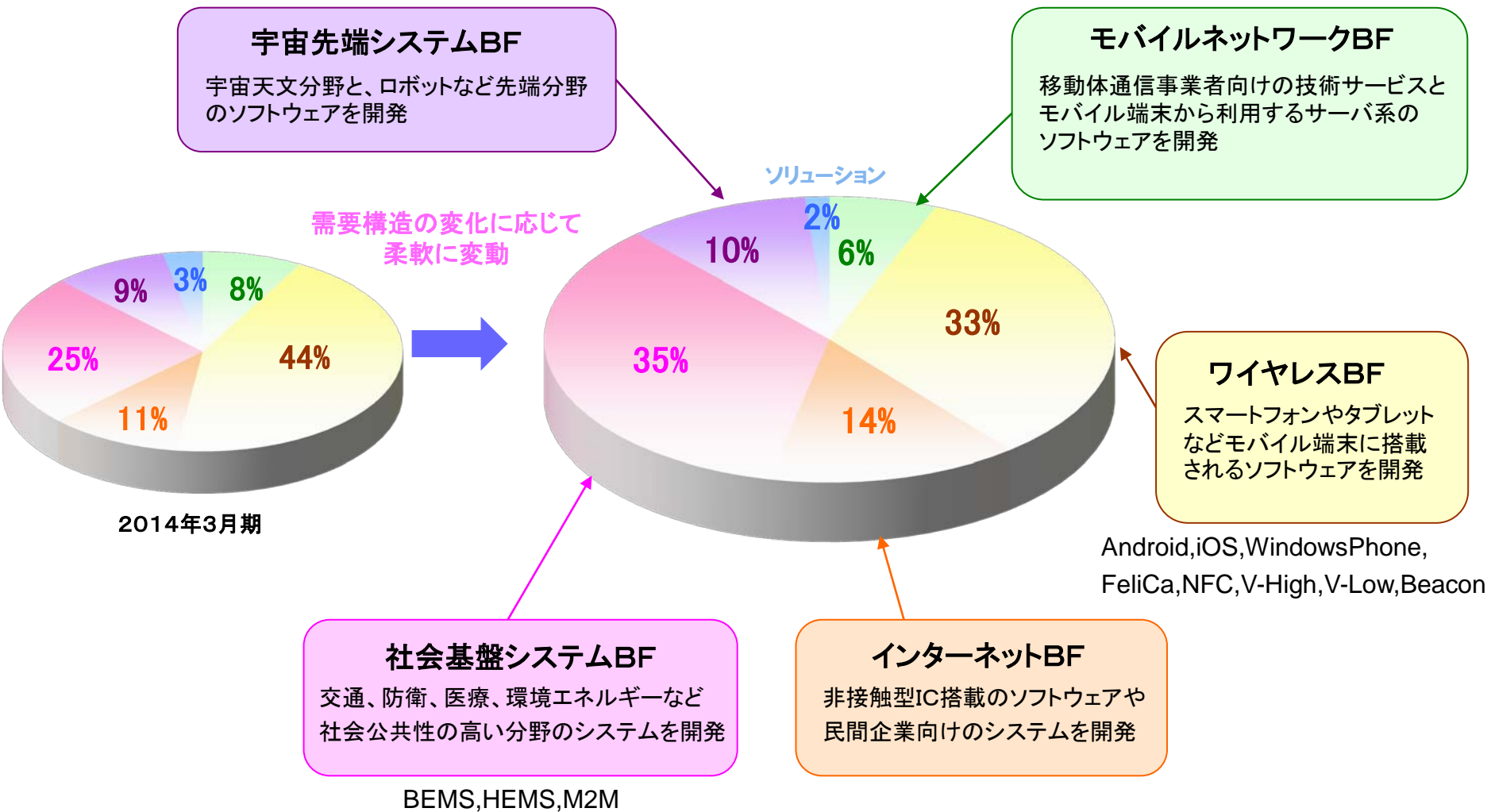
2015年5月25日

<目次>

- **事業分野**
- **決算概要(2015年3月期)**
- **今期業績見通し(2016年3月期)**
- **注力分野の状況**
(オーブンプラットフォーム、環境エネルギー、ロボット)

事業分野（BF）

リアルタイム技術が得意とする5つの分野



宇宙先端システムBF
宇宙天文分野と、ロボットなど先端分野のソフトウェアを開発

モバイルネットワークBF
移動体通信事業者向けの技術サービスとモバイル端末から利用するサーバ系のソフトウェアを開発

ワイヤレスBF
スマートフォンやタブレットなどモバイル端末に搭載されるソフトウェアを開発

社会基盤システムBF
交通、防衛、医療、環境エネルギーなど社会公共性の高い分野のシステムを開発

インターネットBF
非接触型IC搭載のソフトウェアや民間企業向けのシステムを開発

Android,iOS,WindowsPhone, FeliCa,NFC,V-High,V-Low,Beacon

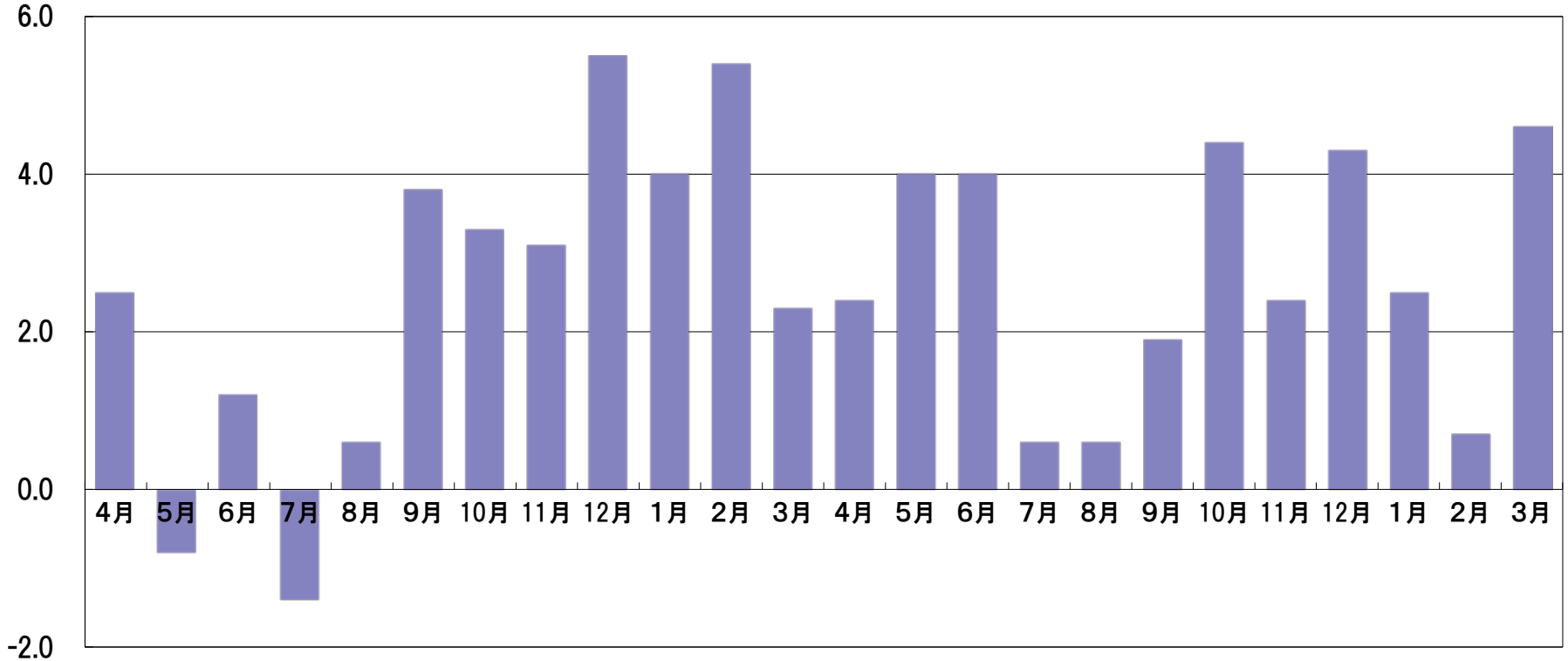
BEMS,HEMS,M2M

決算概要 (2015年3月期)

2015年3月期の事業環境

単位：%

情報サービス業売上高前年同月比推移(経済産業省:特定サービス産業動態統計)



月別売上高は、2013年8月から2015年3月までの20ヶ月連続で増加しており、IT需要は回復傾向

2015年3月期総括

売上高は減少したが、営業利益、当期純利益は増加

売上高	: <u>4,100</u> 百万円	前期比	3.5%減	
営業利益	: <u>656</u> 百万円	前期比	0.7%増	利益率16.0%
経常利益	: <u>706</u> 百万円	前期比	0.2%減	利益率17.2%
当期純利益	: <u>450</u> 百万円	前期比	5.2%増	ROE 10.1%

受注高は減少したが、受注残高は過去最高

受注高	: <u>4,141</u> 百万円	前期比	3.6%減
受注残高	: <u>1,178</u> 百万円	前期比	3.6%増

需要構造の変化に迅速に対応し、継続的な成長を目指す

- 社会公共分野にシフトしたが、ワイヤレス分野の需要が想定以上に減少し減収
- 外注費の削減などで営業利益は増益
- 第3四半期から増収増益になり、需要構造の変化に対応できつつある
- ビジネス的には、下記の成果あり
 - ✓ 社会基盤システムに、継続的な受注が期待できる医療分野を確立
 - ✓ モバイル決済端末や車載端末などの開発が増加
 - ✓ 車両自動走行の開発が増加し、ロボット分野が初めて1億円を突破

損益計算書

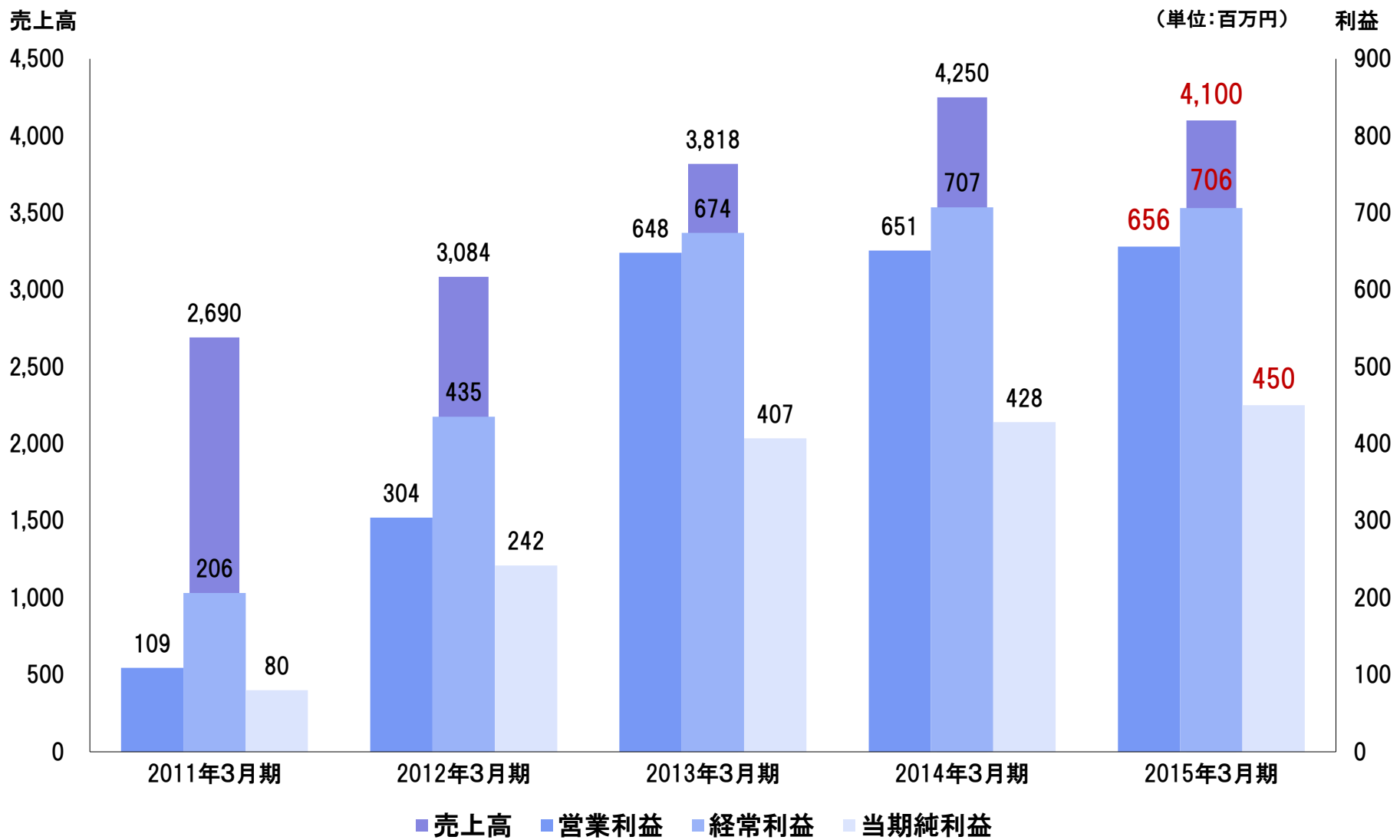
	2014年3月期 (百万円)	2015年3月期 (百万円)	前期比 (%)	期初予想 (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	4,250	4,100	96.5%	4,300	95.4%
売上原価	3,064	2,920	95.3%	3,060	95.4%
売上総利益	1,185	1,179	99.5%	1,240	95.1%
販売管理費	533	523	98.1%	580	90.2%
営業利益 (営業利益率)	651 (15.3%)	656 (16.0%)	100.7%	660 (15.3%)	99.4%
経常利益 (経常利益率)	707 (16.7%)	706 (17.2%)	99.8%	710 (16.5%)	99.5%
当期純利益	428	450	105.2%	450	100.1%

売上原価 外注費は818百万円(前期比69百万円、7.8%減、売上高外注比率20.0%、前期20.9%)
ソフトウェア償却費(前期比55百万円減)など経費の減少、人件費の減少(前期比46百万円減)

販売管理費 研究開発費は53百万円(前期比20百万円、27.4%減)

営業外損益 研究開発の補助金収入は31百万円(前期比9百万円、22.6%減)

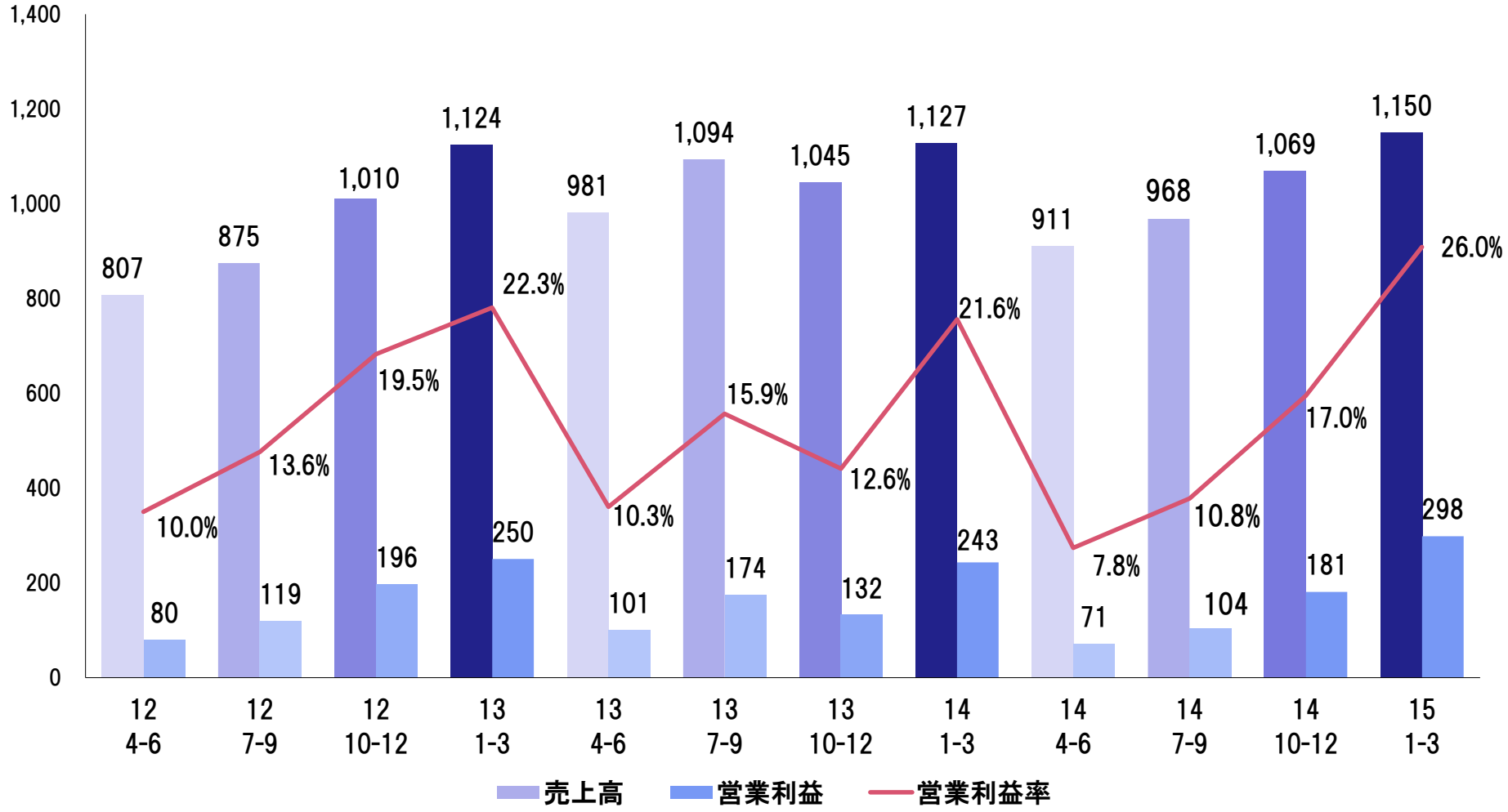
決算業績推移



四半期業績推移(PL)

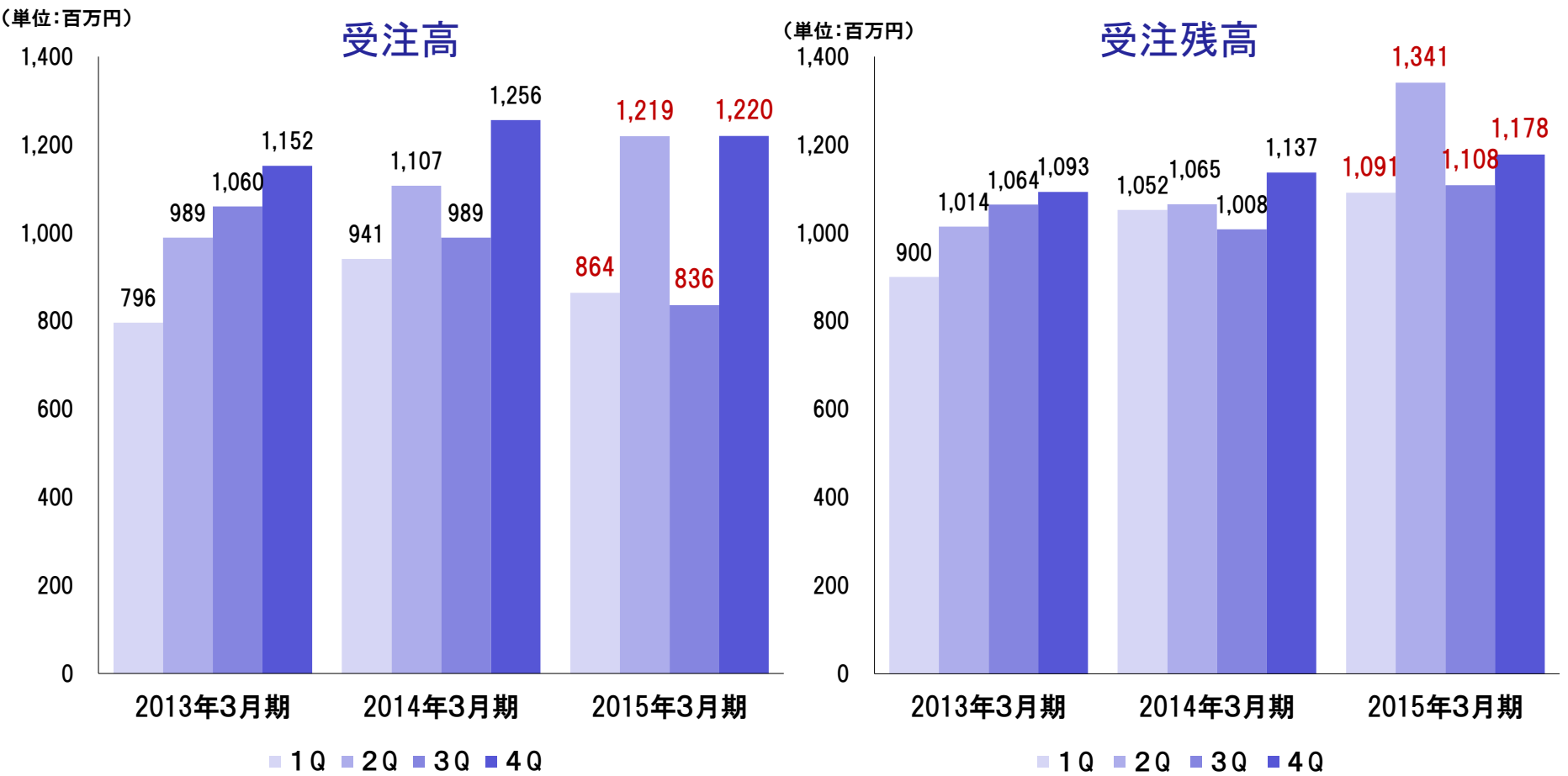
上期の減収減益から2四半期連続で増収増益

(単位：百万円)



四半期業績推移(受注状況)

受注残高は期末としては過去最高に



BF別の状況

ワイヤレス主体から、ワイヤレス・社会基盤システムの2本柱へ

ビジネスフィールド	2014年3月期		2015年3月期		前期比 (%)
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	
モバイルネットワーク	344	8.1	250	6.1	72.6
ワイヤレス	1,871	44.0	1,351	33.0	72.2
インターネット	454	10.7	586	14.3	129.1
社会基盤システム	1,049	24.7	1,425	34.8	135.9
宇宙先端システム	395	9.3	426	10.4	107.8
ソリューション	135	3.2	59	1.4	44.2
合計	4,250	100.0	4,100	100.0	96.5

ワイヤレスは、移動体通信事業者向け開発が減少

社会基盤システムは、医療分野、防衛分野、その他官公庁向けの開発が大幅に増加

BF別受注状況

社会基盤システム、インターネット、宇宙先端システムが増加

ビジネスフィールド	2014年3月期		2015年3月期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前期比 (%)	受注残高 (百万円)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	374	139	138	37.1	28	20.3
ワイヤレス	1,516	185	1,330	87.8	164	89.0
インターネット	501	113	639	127.5	167	147.1
社会基盤システム	1,352	540	1,503	111.2	618	114.4
宇宙先端システム	431	132	476	110.4	181	137.6
ソリューション	117	25	52	44.3	18	70.7
合計	4,294	1,137	4,141	96.4	1,178	103.6

ワイヤレス・モバイルネットワークの減少と社会基盤システムの増加

インターネット・宇宙先端システムで長期案件、大型案件の受注残高が増加

期末貸借対照表

(単位:百万円)

	2014年3月末日	2015年3月末日	増減
流動資産	3,660	4,342	682
固定資産	1,350	1,237	▲113
流動負債	606	796	190
固定負債	102	146	43
純資産	4,302	4,637	334
総資産	5,011	5,580	568
自己資本比率	85.9%	83.1%	▲2.7%
流動比率	604.0%	545.3%	▲58.7%
固定比率	31.4%	26.7%	▲4.7%

流動資産 売掛金増加による増加

固定資産 長期預金の流動資産への振替えによる減少

流動負債 未払法人税等の増加による増加

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2014年3月期	2015年3月期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	283	75	▲208
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲132	▲216	▲84
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲122	▲130	▲7
現金及び同等物の増減額	30	▲269	▲299
現金及び同等物期末残高	2,132	1,863	▲269

- 営業キャッシュ・フロー 社会基盤システム案件の増加に伴い、検収が期末に集中し、
期末売掛金が増加したことによる収入減
- 投資キャッシュ・フロー 投資有価証券の取得額などによる支出増
- 財務キャッシュ・フロー 配当金支払額の増加による支出増

今期業績見通し (2016年3月期)

2016年3月期重点テーマ

需要構造の変化へ対応し、継続的な成長を目指す

ワイヤレスBFと社会基盤システムBFを2本柱として基本となる業績を確保し、成長分野を開拓する

- ワイヤレスBF → モバイル決済端末、車載端末など新規分野を拡大
- 社会基盤システムBF → 医療、防衛、官公庁などが堅調、環境エネルギーは海外を期待
- 成長分野 → 車両自動走行関連を中心にロボット分野を拡大

継続的な成長のために、内部体制を強化する

- 次の成長のための研究開発 → 研究開発体制を強化し、新規の研究開発案件を発掘
- 優秀な人材を獲得するための採用 → 採用時期の変更に対応した採用方法の多角化
- 社員を成長させるための教育 → 学ぶ組織を創る
- コーポレートガバナンスの強化 → 監査等委員会設置会社への移行

2016年3月期業績見通し

成長投資のため増収、減益

(単位:百万円)

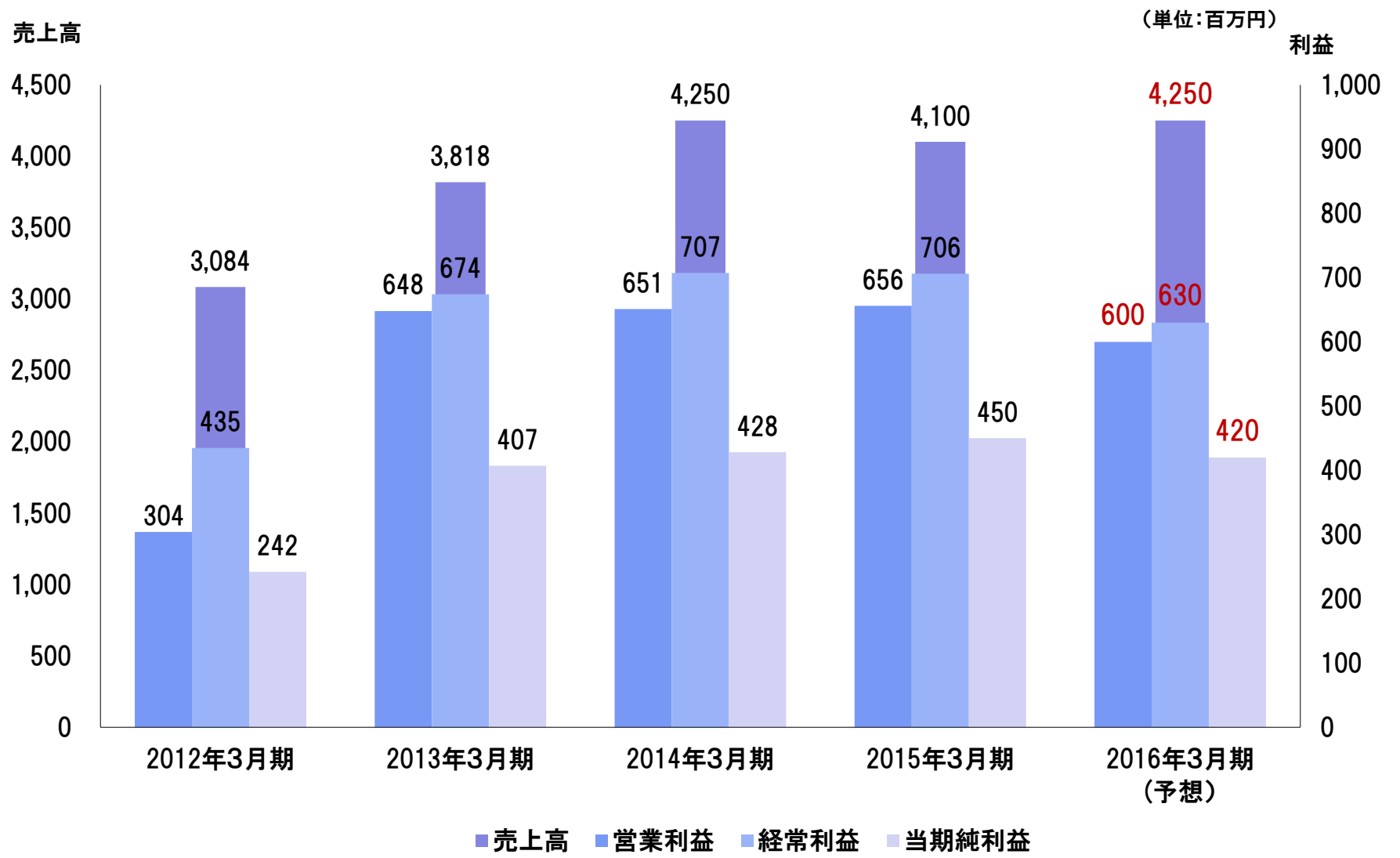
	2015年3月期	2016年3月期 業績予想	前期比 (%)
売上高	4,100	4,250	103.7
売上原価	2,920	3,060	104.8
売上総利益	1,179	1,190	100.9
販売管理費	523	590	112.7
営業利益 (営業利益率)	656 (16.0%)	600 (14.1%)	91.4
経常利益 (経常利益率)	706 (17.2%)	630 (14.8%)	89.2
当期純利益	450	420	93.2

売上原価 外注費、人件費の増加を見込む

販売管理費 研究開発、採用、教育などに投資するため、増加を見込む

営業外損益 研究開発の補助金収入は減少を見込む

通期業績の推移



2016年3月期BF別業績見通し

社会基盤システム、インターネット、宇宙先端システムが増加の見通し

ビジネスフィールド	期初の想定	予想
モバイルネットワーク	移動体通信事業者向け開発が減少すると予想されることから、減少	↘
ワイヤレス	移動体通信事業者向けのスマートフォンに関連する開発の減少に歯止めがかかり、モバイル決済端末や車載端末などの新たなサービス系の商談を上乗せして、ほぼ横ばい	→
インターネット	民間企業の需要が期待できることから増加	↗
社会基盤システム	医療や防衛、官公庁系、放送などが引き続き堅調と予想されることから増加	↗
宇宙先端システム	ロボット分野の車両自動走行が期待できることから増加	↗
ソリューション	Android版地上デジタル放送製品 (airCube) の販売が減少すると予想されることから減少	↘

注力分野の状況

オーブンプラットフォーム

- モバイルネットワークBF／ワイヤレスBF／インターネットBF

環境エネルギー

- 社会基盤システムBF

ロボット

- 宇宙先端システムBF

オープンプラットフォーム

新技術への対応を加速し、次のマーケットを拡大

状況

- ・ 2008年よりAndroidスマートフォンを中心としたソフトウェア開発でマーケットを開拓
- ・ 通信事業者向けを中心としたサービス系ソフトウェア開発によりマーケットを拡大
- ・ 2014年3月期下期から2015年3月期に、スマートフォンに関連する開発が一段落し需要が大きく落ち込む

実績（2015年3月期 売上高約1545百万円）

- ・ Android、iOS、WindowsPhoneのスマートフォン・タブレットのソフトウェア開発
- ・ 移動体通信事業者やマルチメディア放送事業者向け関連するサービス系のソフトウェア開発
→マルチメディア放送は好調だったが、電子マネー・NFCなどは大きく減少



今後の方針（新技術への対応を加速し次のマーケットを拡大）

- ・ Android、iOS、WindowsPhoneなどの既存のマーケットをしっかり維持する
- ・ スマートフォンのみならずNFC搭載機器(決済端末など)のマーケットをサーバ開発を含め拡大
- ・ airCube for Androidの資産を活かし、新しいマルチメディア放送(V-Low)サービスへの適用促進
- ・ ウェアラブルコンピュータ(NFC連携)ならびに屋内位置測位技術(Beacon)のマーケットを拡大
- ・ 車載端末のマーケットの拡大を目指す

環境エネルギー(M2M:Machine to Machine)

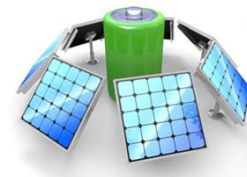
センサーベース技術 (M2M) を軸にビジネスを推進

状況

- ・ 2008年度より環境エネルギー分野に取り組み、「急速充電器遠隔監視制御システム」、「スマート充電システム」(KDDIとの共同特許出願申請)を開発
- ・ 2010年度より、デンソー、豊田通商と共に商用施設用蓄電池付BEMS (Building and Energy Management System)の研究開発と実証検証に参画(経済産業省補助事業)
- ・ 太陽光エネルギーマネジメントシステムへビジネス展開
- ・ 環境エネルギー分野を支えるM2M (Machine to Machine) 技術を活用し、ビジネス拡大

実績 (2015年3月期売上高約144百万円、研究補助金約5百万円)

- ・ 豊田市低炭素社会システムの実証プロジェクト(エネルギーマネジメントシステムの開発)は終了
- ・ メガソーラーベンダ向けの太陽光発電エネルギーマネジメントシステムが増加
→太陽光のパネル単位の監視、発電効率の監視等、他社にない機能開発を推進
- ・ 環境省向けのエネルギーに関する電子報告システムを開発



今後の方針(他社とアライアンスを組んで推進)

- ・ 太陽光発電エネルギーマネジメントシステムの開発及びソリューション化(メガソーラーベンダとのアライアンス)
- ・ センサーベース技術の強みを活かしてM2Mという視点で範囲を広げてビジネスを推進
→高齢者向け在宅見守りシステムの開発及びソリューション化(環境センサーベンダとのアライアンス)
- ・ エネルギーをキーワードとした海外案件に期待

ユビキタス社会の究極の端末はロボット

状況

- ・ 2003年からロボットに取り組み、ロボット関連技術を持つ数少ないソフトウェアベンダーで先行優位
- ・ 2005年からNEDOからの受託研究を開始、2012年に「次世代ロボット知能化技術開発プロジェクト」成果公開
- ・ 国際標準仕様RTC(Robot Technology Component)準拠のRTミドルウェアをコアテクノロジーとしてビジネス化を推進
- ・ 機能安全対応RTミドルウェアRTMSafetyについてIEC61508の認証を取得、RTM Safetyが、exida SAFETY AWARDS 2013受賞
- ・ 経済産業省「ロボット介護機器開発・導入促進事業(基準策定・評価事業)」に参画

実績 (2015年3月期 売上高約 141百万円、研究補助金約26百万円)

- ・ 開発案件
 - ・ 車両自動走行ソフトウェアの開発
 - ・ データセンター巡回センシングロボット開発
 - ・ ロボットメカ、JAXA、NICT、大学からの受託開発
- ・ 論文発表他
 - ・ 日本ロボット学会学術講演会にて宇宙ロボット向けミドルウェアに関する論文発表
 - ・ 京都次世代ものづくり産業雇用創出プロジェクトセミナーにてRT技術について講演

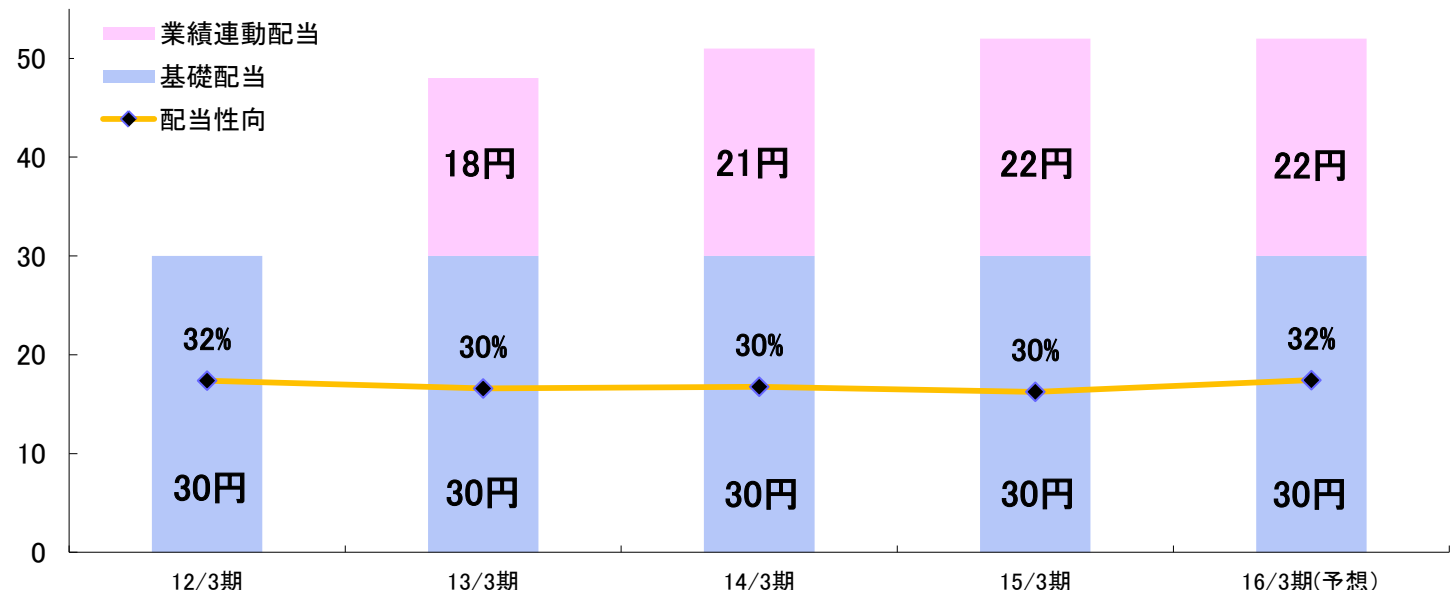


今後の方針(全方位でビジネスを拡大)

- ・ ロボットメカ、大手半導体メカ、ロボットベンチャーと協業し、RTMSafetyのライセンスビジネスを推進
- ・ 車両自動走行などのロボットソフトウェアの受託開発を拡大
- ・ 機能安全コンサルテーション及び機能安全関連システム受託開発

配当の方針

- 原則として安定的に配当する部分と所定の配当性向とを勘案して毎期決定する。配当性向は、当面30%を目指す。安定的に配当する部分は、1株当たり30円とする。
- 2016年3月期は、2015年3月期と同額の52円の予想とする。



● この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。

● 当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどに関する記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。

● この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。